出版流通メディア資料集成（六）

—書籍雑誌業団体史編 2　地域で本を商う

監修・解題—**柴野 京子**

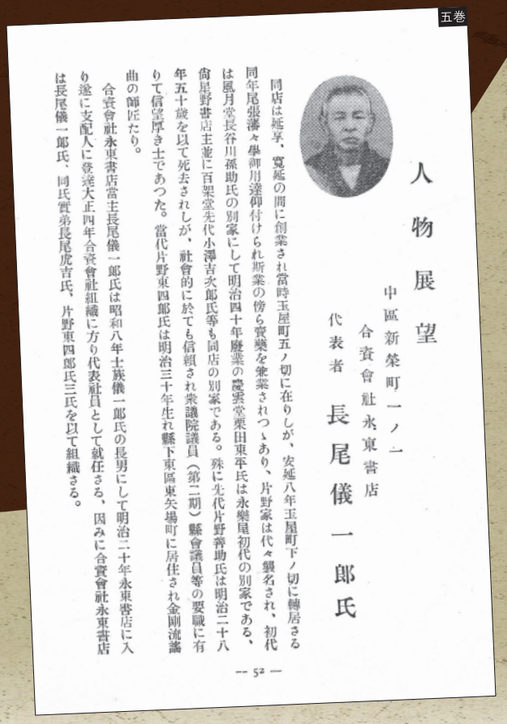
【全六・別巻・別冊】［編集復刻版］

＊文圃文献類従　82＊

監修・解題—**柴野 京子**（上智大学）

造　　本— A5 判・上製（別巻・別冊は並製）・総約 2,150 頁

揃　　価— 100,000 円（別冊のみ分売可 1,000 円）



五巻

人物展望

中區新榮町一ノ二
合資會社永東書店
代表者　長尾儀一郎氏

同店は越孚、寛延の間に創業され當時玉屋町五ノ切に在りしが、安延八年玉屋町下ノ切に轉居さる同年尾張藩々學御用達御用付けられ斯業の傍ら賣藥を兼業されつゝあり、片野家は代々襲名され、初代は風月堂長谷川孫助氏の別家にして明治四十年廢業の慶雲堂栗田東平氏は永樂屋初代の別家である、尚星野書店主並に百架堂先代小澤吉次郎氏等も同店の別家である。殊に先代片野善助氏は明治二十八年五十歳を以て死去されしが、社會的に於ても信頼され衆議院議員（第二期）縣會議員等の要職に有りて信望厚き士であつた。當代片野東四郎氏は明治三十年生れ縣下東區東矢場町に居住され金剛流謠曲の師匠たり。

合資會社永東書店主長尾儀一郎氏は昭和八年士葬儀一郎氏の長男にして明治二十年永東書店に入り遂に支配人に登巡大正四年合資會社組織に方り代表社員として就任さる、因みに合資會社永東書店は長尾儀一郎氏、同氏實弟長尾虎吉氏、片野東四郎氏三氏を以て組織さる。

— 52 —

—収録資料—

第一回配本（2021 年 9 月）　ISBN978-4-910363-40-0　配本揃価 28,000 円

【第一巻】400 頁
『〔北海道書籍雑誌商組合〕創立二十年史』（北海道書籍雑誌商組合、1939 年）

【第二巻】120 頁
『千葉県書籍商組合十年史』（千葉県書籍商組合、1930 年）

第二回配本（2022 年 3 月）　ISBN978-4-910363-41-7　配本揃価 30,000 円

【第三巻】216 頁
『信濃書籍雑誌商組合三十年史』（信濃書籍雑誌商組合、1938 年）

【第四巻】344 頁
『新潟県書籍雑誌商組合史』（新潟県書籍雑誌商組合、1941 年）

第三回配本（2022 年 9 月）　ISBN978-4-910363-42-4　配本揃価 42,000 円

【第五巻】208 頁
『名古屋書籍商史』（梶田保編、名古屋書籍商史刊行会、1936 年）
〈付録資料〉『名古屋書賈略年譜』（三浦兼助著、1931 年）

【第六巻】360 頁
『兵庫県書籍雑誌商組合三十年誌』（兵庫県書籍雑誌商組合、1937 年）

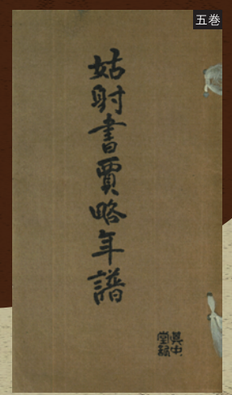
【別巻】約 460 頁
〈特別附録一、地域書籍雑誌業関係資料〉
①『全国書籍雑誌商組合地方協会総会議事録（第 10 回）』（全国書籍雑誌商組合地方協会、1933 年）
②『石川県書籍雑誌小売商業組合 定款（草案）（昭和 16 年 10 月）』（石川県書籍雑誌小売商業組合、1941 年）
③『石川県書籍雑誌小売商業組合 組合員名簿（昭和 17 年 6 月 26 日現在）』（同上、1942 年）
④『石川県書籍雑誌小売商業組合 定款（昭和 17 年 8 月）』（同上、1942 年）
⑤『石川県書籍雑誌小売商業組合
　書籍雑誌小売業—企業整備要綱／共助施設実施要項（昭和 19 年 2 月）』（同上、1944 年）
〈特別附録二、地域書籍雑誌業関係資料〉
⑥『千二百円で出来る書籍雑誌店開業案内：附・たばこ店・古本屋』（河村清一著、誠光堂、1936 年）
⑦『書店通信』創刊号（書店通信社、昭和 10 年）

【別冊】約 50 頁　ISBN978-4-910363-43-1　価格 1,000 円（別冊のみ）
＊解題・総目次・索引

戦前の書籍雑誌商は、中央との関係とともに地域内での関係、
さらに県をまたいだ横の関係の中で流通の仕組みを整えていった。
書籍雑誌商組合史は、それらが各々の地域でどのように受け止められ、
実践されていったかを知る基礎的かつ重要な資料。

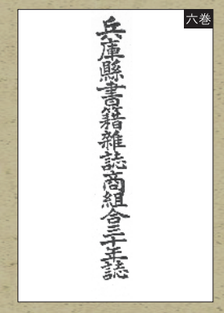
また地域で小売書店を営む際に収益の柱となったのは雑誌の取扱いだった。
地域の本屋の戦前期の歩みは、雑誌販売とともにある。
その歴史には自ずと近代の雑誌メディアと
その読者の姿が投影されることになる。

本資料集は、戦前の道府県書籍雑誌商組合史という
同業組合組織の歴史を編纂した六書と、その関連資料を収録。

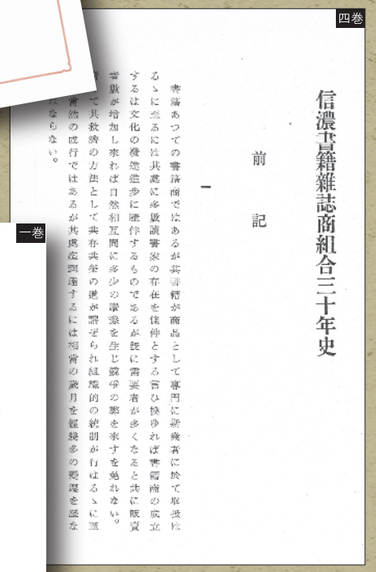


五巻

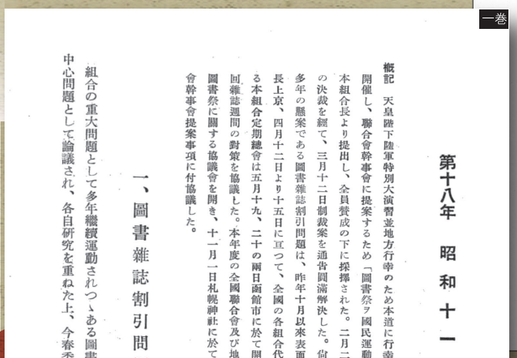
四巻



六巻



四巻



一巻

一巻

戦前、書物・雑誌とひとびとは、
どのような関係をきずいていたのだろうか？
本と人とを考える。

類縁書案内

『出版流通メディア資料集成（一）—書籍雑誌業団体史編』
【全4・別巻】A5糸上製函、総1,933頁、揃価95,000円　柴野京子編・解題

『出版流通メディア資料集成（二）—戦時日本出版配給機関誌編』
【全12巻】揃価264,000円　柴野京子編・解題／牧義之解題

『出版流通メディア資料集成（三）地域古書店年表—昭和戦前戦後期の古本屋ダイレクトリー』
【全2巻】揃価32,000円　柴野京子編・解題／牧義之解題

『出版流通メディア資料集成（四）内地外地書店名鑑—明治大正昭和戦時期の本屋ダイレクトリー』
【全3巻】揃価50,000円　柴野京子編・解題／牧義之解題

『出版流通メディア資料集成（五）明治期書店文書—信州・高美書店の近代』
【全6巻】揃価132,000円　柴野京子編・解題／牧義之解題

『帝国日本の書籍商史—人物・組織・歴史』
【全3・別巻】揃価64,000円　大久保久雄監修

Kanazawa Bumpokaku
金沢文圃閣
〒920-0867 金沢市長土塀2-16-30
Tel 076-261-8884　Fax 233-3111
□書店様へ…ありがとうございます
直接小閣までお申し込みください

図版はすべて本書より
価格は税別　052／09／4000

書誌・出版史・書物メディア史のシリーズ　＊文圃文献類従 82＊

出版流通メディア資料集成（六）

—書籍雑誌業団体史編2　地域で本を商う

監修・解題—**柴野 京子**

【全六・別巻・別冊】［編集復刻版］

金沢文圃閣

刊行のことば

柴野 京子

本資料集は、戦前の道府県書籍雑誌商組合史という同業組合組織の歴史を編纂した本とその関連資料を収録したものである。

出版は他の産業と同じく、きわめて早い速度で何度かの「近代化」を迎えた。そして、業界の成立、産業化とほぼイコールで進められてきたこの近代化過程で、重要な役割を果たしてきたのが同業組合なのである。戦前の出版産業は、おおまかには同業組合が創設される明治半ば、定価販売の奨励を目的に組織化がはかられる大正期、市場の拡大を経た昭和はじめの業界改革期、の3期に区分できるが、これらは出版業者たちがみずからつくりあげた産業プロジェクトであると同時に、国民国家の建設というマクロな環境、近代的な読者の成立との三位一体で、日本の出版を収斂してきた道のりでもある。

日本の出版流通はあまりに特徴的であり、なおかつ戦時体制の残滓が明確であるために、近代全体へのまなざしを辿る作業は、いささかないがしろにされてきた憾みもないではない。けれども今一度そこに目を投じれば、日本の出版がすでに、「デジタル化」に匹敵する「近代化」という変革期を経ていたこと、同業組合が流通をキーファクターとしてこれを乗り越えてきたことがわかる。幸いにして、資料は残されている。そのような意味で、この同業組合史をひもとき、近代出版流通を考察する意義は今なお失われてはいない。

本書「解題」などより作成

▼総目次より（抄）▼

【第一巻】
『〔北海道書籍雑誌商組合〕創立二十年史』
回顧20年　前原 好雄（北海道書籍雑誌商組合副組長）
編纂者として　古田 喜代二（編纂委員）
第5年　大正12年度
　概記
　一、特定売価廃止
　四、帝都大震火災と我が組合
　⋮
第15年　昭和8年度
　四、雑誌運賃問題の解決
第16年　昭和9年度
　一、雑誌週間と図書祭の問題
　二、函館市の大火災
第18年　昭和11年度
　一、図書雑誌割引問題
第20年　昭和13年度
　二、雑誌歩引問題
　三、雑誌返品調節
感想と思出
　思ひ出づるままに　藤井 紫明（富良野町）
　組合20周年を通じて　土肥 文岳（剣淵）
　20周年記念史発刊に際し　桜庭 作治（函館市）
　創立20周年を迎へて　斎藤 栄山（本別）
　距離制限問題　西堀 藤吉（函館）
　思出の数々　堀 喜代三郎（追分）

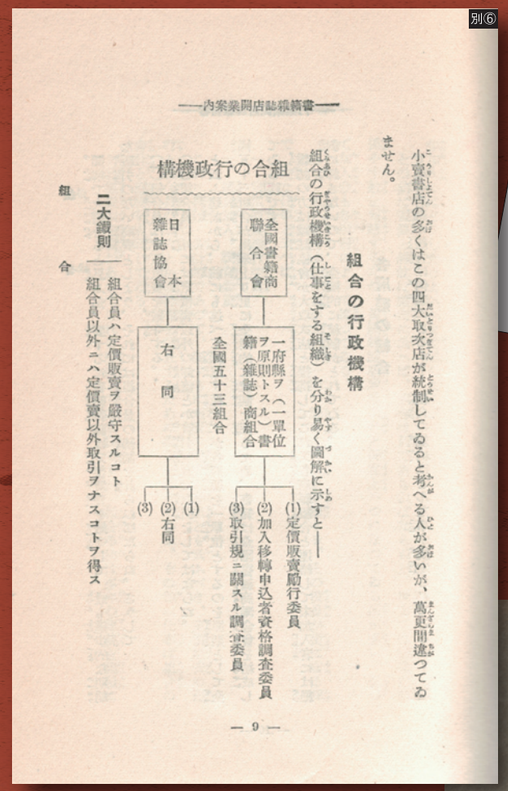
【第二巻】
『千葉県書籍商組合十年史』
千葉県書籍商組合10年史
　組合設立の沿革
　日記類の定価販売
　店員氏名
全国書籍商組合連合会の成立
全国書籍雑誌商組合地方協会の組織

【第三巻】
『信濃書籍雑誌商組合三十年史』
　⋮
第二編　業績篇
　第一章　書籍雑誌定価販売
　第二章　現金取引励行
　第三章　日記の乱売防止
　第四章　書籍雑誌の運賃問題
　第五章　信濃教育会出版の図書
　第六章　全国図書祭
　第七章　営業税免除並運賃低減の請願
　第八章　農学校の購買組合に付陳情
　第九章　店員奨励
　第十章　通報の発行
　第十一章　創立30周年記念祝賀会
第三編　結記
　第一章　年次記要
　第二章　信濃書籍雑誌商組合規則（現行）
　第三章　現在組合員名簿

【第四巻】
『新潟県書籍雑誌商組合史』
第一　紀要篇
　昭和8年
　　図書祭懸賞募集
　　雑誌デー計画
　　図書祭懸賞審査委員会
　　⋮

【第五巻】
『名古屋書籍商史』
組合制度の起源と見解
名古屋業界変遷
　名古屋書賈略年譜
　国定教科書販売の事
名古屋書籍雑誌商組合録事
　名古屋書籍商組合沿革
　名古屋書籍雑誌商組合設立
名古屋古書籍組合録事

【第六巻】
『兵庫県書籍雑誌商組合三十年誌』
総説
　神戸市の文化的発展記録
本県書籍商組合創立
　⋮


別⑥

小賣書店の多くはこの四大取次店が統制してゐると考へる人が多いが、萬更間違つてゐません。

組合の行政機構

組合の行政機構（仕事をする組織）を分り易く圖解に示すと——

全國書籍商聯合會
一府縣ヲ一單位ヲ原則トス（雜誌）商組合
全國五十三組合
(1)定價販賣勵行委員
(2)加入移轉申込審査資格調査委員
(3)取引規ニ關スル調査委員
日本雜誌協會
右同
(1)
(2)右同
(3)

二大鐵則——組合員ハ定價販賣ヲ嚴守スルコト
組合員以外ニハ定價賣以外取引ヲナスコトヲ得ス

— 9 —

別①

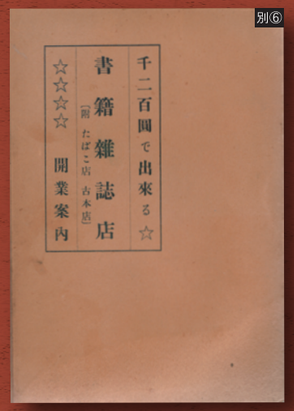
第十回全國書籍雜誌商組合地方協會總會議事錄

別⑤

昭和十九年二月

書籍雜誌小賣業
企業整備要綱
共助施設實施要綱

石川縣書籍雜誌小賣商業組合


別⑥

千二百圓で出來る☆
書籍雜誌店
☆☆☆☆
開業案內
附・たばこ店・古本店

一巻『〔北海道書籍雑誌商組合〕創立二十年史』

北海道組合の歴史は雑誌の取引条件交渉の歴史で編纂者の古田喜代二は、創設以来役員を務め組合運営に尽力した人物。

二巻『千葉県書籍商組合十年史』

会長は能勢鼎三率いる多田屋。

三巻『信濃書籍雑誌商組合三十年史』

山に隔てられた地理的環境や、教育県としての独自の発展など特色が多く、善光寺門前に店を構える西沢書店（安政年間創業）、松本城下の高美書店（寛政９年創業）の二大書肆が、存在感実力ともに突出。

四巻『新潟県書籍雑誌商組合史』

初代組長である長岡の覚張治平は、骨董商から明治期に書店専業になった。長岡は博文館の大橋家の出身地で所縁も深く、戦前は覚張と目黒書店の二社で県内の仲卸を担っていた。

五巻『名古屋書籍商史』／『名古屋書賈略年譜』

名古屋市内の書店の特徴はその多様性にあり、新刊系の組合員 300 余、古書系 200 余を擁しながら全体の書店数は 250 程度と、兼業者が目立つ。付録に江戸～大正期の書店系譜をまとめた稀覯資料を収録。

六巻『兵庫県書籍雑誌商組合三十年誌』

明石の中学校で起きた教科書の割引問題を契機に発足。

別巻①『全国書籍雑誌商組合地方協会総会議事録（第 10 回）』

雑誌回読会やいわゆる雑誌の不正販売防止についての議論なども収録。ここより雑誌メディアの流通のあり方、読まれ方の糸口が得られる。

別巻②～⑤　石川県書籍雑誌小売商業組合関連資料

書店整備の具体的な実施方法を示す稀少な資料。

別巻⑥『千二百円で出来る書籍雑誌店開業案内：附・たばこ店・古本屋』

当時の店舗および取引に関するスタンダードがわかり、有用性が高い。新刊はもちろん赤本やゾッキ本の扱い、組合加盟、経営資金、店舗配置に至るまで、微細に説明。

別巻⑦『書店通信』創刊号

業界問題をとりあげた批判的な誌面が特徴
新刊情報リストは当時の相場を示すデータとして貴重。

▼近代 出版流通メディア 略年表▼

1872年　本屋仲間廃止、東京書林組合結成。
1874年　大阪書林組合結成。
1878年　取次良明堂創業（新聞取扱店として発足）。
1883年　新聞・雑誌の発行に保証金制度実施。
1890年　東京堂創業（書店）、翌年卸部を開設、元卸を始める。
1892年　東京雑誌売捌営業者組合創立、乱売防止をはかる（→1898年解散）。
1908年　東京市内で一部の出版社が小規模に試行的に行っていた雑誌の委託販売制を実業之日本社が本格的に開始。
1910年　雑誌元卸7社、乱売防止を協定。
1912年　この頃から従来の売切制が返品きき委託制へ漸次移行。
1914年　雑誌の割引販売防止を目的として東京雑誌組合創立（→1924年日本雑誌協会）、続いて東京雑誌販売業組合設立。東京図書出版組合創立（→1918年東京出版協会）。
1915年　この頃各地に雑誌販売業組合結成される。
1919年　業者団体の申し合わせによる定価販売始まる。東京図書雑誌純小売業組合創立（→東京図書雑誌小売業組合）。
1920年　全国書籍商組合連合会設立、大阪取次参文社創立、この頃各地に書籍商組合の結成が促進される。
1923年　「大正大震災大火災」雑誌扱い送品の例を開く。
1924年　日本雑誌協会取引を承認組合の加入書店に限る。
1925年　「キング」創刊、空前の発行部数を記録する。取次大東館創立（雑誌元取次四社時代始まる）。
1926年　改造社「現代日本文学全集」の予約を開始、円本時代始まる。
1927年　新聞の販売史上で歴史的な大乱売（←1926年）につき、各社自ら定価売実行の機運、定価売即行会は解消、15社間に「新聞販売聯盟」成立。円本全集増加の為、大取次から地方小売書店への発送到着に混乱、改造社・新潮社など円本出版社及大取次、各地小売書店に対し発売日協定を要請。
1929年　日本雑誌協会、読者に販売した雑誌を買戻し返品する悪質小売業者に対し直ちに取引停止処分をとる旨、全国小売書店に警告。
1932年　日本雑誌協会、返品制度を悪用する雑誌販売業者の増加に対処するため地方の書籍雑誌商組合代表を招き、雑誌の不正販売・不正返品防止につき懇談、組合員の古本業兼営禁止条項を組合規約に挿入要請。
1934年　婦人雑誌の無制限な付録競争は書店販売面の大きな負担となり、小売業者は廃止要望、大取次は運賃加重から発行所に対し付録発行回数と重量制限を提案、日本雑誌協会で対策検討。
1935年　大阪書籍雑誌商組合、組合雑誌規程に「発売日を協定せる雑誌は其協定日以前に於て発売することを得ず」の一項を加える。
1936年　満洲書籍雑誌商組合、満洲国における定価販売即行の現地要望に対処するため上京、書籍雑誌の正味引下げ・運賃荷造費の版元または取次店負担・書籍の鉄道運賃率の雑誌なみ引下げ等、全国書籍商組合聯合会に提議。業界の取引機構の改革運動に応じ、兵庫県書籍雑誌組合中、新本販売業者だけの新団体「兵庫県書籍協会」創立，仕入の統制・現金売励行などを目ざす。
1937年　全国書籍雑誌商組合地方協会、雑誌正味引下げ実現のため、日本雑誌協会と会談，地方側は定価値上・正味引下と主張，雑誌側は定価値上による売行影響を考慮し同意せず、今後の重大懸案。
1938年　用紙の国家統制始まる。内務省雑誌浄化にのり出す。
1939年　栃木県書籍雑誌商組合、創立20周年記念式典を挙行。その他多くの地方書籍雑誌商組合も創立20年を迎う。
1940年　出版団体統合、日本出版文化協会設立。
1941年　日本出版配給株式会社創立—全取次業務を統合。
1943年　出版事業令公布、図書雑誌の売切買切制を全面実施（→1948年委託制復活）。
1944年　雑誌の統合、出版社・書店の整理が促進される。日配統制会社に改組。
1945年　小売業者のみの日本出版物小売統制組合聯合会創立（当時の全国書店数は約3,000軒）。
1949年　日配閉鎖機関に指定。出版法、新聞法廃法。東京出版販売KK、日本出版販売KK、中央社、大阪屋、日教販など新取次会社設立。
1953年　独禁法改正され、適用除外の規定新設によって出版物の再販売価格維持行為認められる（定価販売の法定）。